

「東アジア文化都市」の概要について

1. 事業開始年

2014年（平成26年）から日本、中国、韓国の3か国間で開始

2. これまでの選定都市

2014年：横浜市（日本）、泉州市（中国）、光州広域市（韓国）

2015年：新潟市（日本）、青島市（中国）、清州市（韓国）

2016年：奈良市（日本）、寧波市（中国）、済州特別自治道（韓国）

2017年：京都市（日本）、長沙市（中国）、大邱広域市（韓国）

2018年：金沢市（日本）、ハルビン市（中国）、釜山広域市（韓国）

2019年（国内都市）：豊島区（日本）、未定（中国）、仁川広域市（韓国）

3. 選定基準

中国、韓国をはじめ東アジア諸国との文化交流、文化都市、創造都市としての施策展開の実績及び今後の計画、実施される事業の内容等を考慮して選定。

4. 事業内容

東アジア文化都市に選ばれた都市は、事業の目的を踏まえ、1年（1月～12月）を通じて、下記の内容等に係る様々な文化芸術イベントを企画・実施。

- 開会イベント・閉会イベント
- 中核期間（1か月程度）を設け、集中的に文化芸術関連事業を実施
- 日中韓3都市間を中心とした交流事業を実施

5. 2020年「東アジア文化都市」の国内都市北九州市について

北九州市は、昭和38年2月に門司、小倉、若松、八幡、戸畑の5市が合併して発足し、同年4月に政令指定都市へと移行した都市である。

貿易の重要な拠点である門司港と、官営八幡製鉄所を中心に形成された国内有数の重工業都市として発展を遂げてきた。また、発展の過程で発生した公害を官民連携で克服し、その経験と技術を活かして環境国際協力や循環型社会づくりを進めており、2018年にはOECDからアジアで唯一「SDGsモデル都市」に選定されるなど、「持続可能なまちづくり」に先進的に取り組んでいる。

文化芸術面では、「映画の街」、「文学の街」をはじめ、音楽、演劇、美術、漫画など多分野の取組を展開するとともに、世界遺産や多様な文化遺産の保存と活用を図りながら街づくりを進め、都市の魅力を高めている点が評価され、「平成29年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受賞。昨今では、漫画・アニメ等を中心にメディア芸術における芸産学官が連携した取組や、美術館・歴史博物館を中核とした文化クラーターの創出事業に取り組んでいる。

【人口946,728人（平成30年7月1日現在）】